

氏名（本籍） 桶本 まどか（石川県）  
学位の種類 博士（音楽学）  
学位記番号 甲第20号  
学位授与年月日 令和5年3月18日  
学位授与の要件 学位規則第3条第3項  
学位論文題目 ヴァイオリンの演奏と歌声の声質に関する評価に利用可能な音楽音響  
パラメータの設計

学位論文等審査委員

（総合審査）	委員長	准教授	瀧川 淳
		教授	阪上 正巳
		教授	友利 修
		准教授	沢田 千秋
		准教授	瀬尾 文子
（論文審査）	委員長	准教授	瀧川 淳
		教授	友利 修
		准教授	沢田 千秋
		准教授	瀬尾 文子

---

審査結果の要旨

審査所見

学位審査委員会は、申請者 桶本まどか の学位申請論文「『ヴァイオリンの演奏と歌声の声質に関する評価に利用可能な音楽音響パラメータの設計』」に関して厳正な審査を行なった。

以下に、1. 論文審査、2. 総合審査に関する所見を記す。

1. 論文審査

本論文は、機械学習装置に単に録音信号を入力するのではなく、申請者が音楽演奏に特化した一連の音響パラメータを提案した上で、それらを機械学習装置へ入力し、その有効性を明らかにしようとしている。具体的には、ヴァイオリンのスケール演奏からの技術レベルの推定、ならびに歌唱の嗜好度の推定をとりあげ、それらのための音響パラメータを提案、実験を通して一定の推定が成功を収めている。

研究の実施においては、録音信号から音響パラメータを計算し、実験参加者に主観評価をしてもらい、それらを線形回帰によって接続するという、音楽はもとより、情報工学、心理学、統計学といった分野を横断する知識が要求された。

ヴァイオリンと歌唱に共通した音響パラメータも多く、これら以外の楽器や楽曲への応用の可能性も高い。楽曲リコmendシステムのみならず、演奏教育にも応用できる可能性がある有意義な研究であると認められる。

一方で、基本的な概念の定義や説明が曖昧なままに、また適切な引用がないままに論が展開されているという問題が指摘される。さらに提案された音響パラメータの根拠や、実験の対象、また実験に用いられたデータに対する説明が不十分であるというように論文としての仕上がりの点で、研究の独創性や意義に見合わない弱さが認められることも否めない。

しかしながら、開発しようとする技術の着想とその実現に向けた計画およびその遂行は、独自性、専門性や観点から、感性工学分野の研究として優れたものと判断でき、本論文が音楽学研究領域の学位論文として合格であると判定する。

## 2. 総合審査

本研究に関わって、申請者はこれまで国内外の学会等を通して建設的に口頭発表や論文といった研究業績を積み重ね、それらに対して高い評価を得てきている。また講義等への意欲的な関わりから学業上で他の学生の規範となり得たこと、さらには日本学術振興会特別研究員(DC2)やTA、RAとしての教育研究の評価を考慮して、申請者が音楽学の分野においても独創的な研究を遂行する教育・研究者として活動していくことが十分に期待できることから、「博士(音楽学) Doctor of Philosophy in Musicology」の学位を授与するに相応しいものと判断する。